

会員数 (2006年11月末現在) 260名。
目標!! 会員500名!! 一人が一人紹介すれば500名になります!!

49年白門会のホームページ ↓

<http://www.gakuinkai.com/hakumon49/>

CONTENTS	
1ページ	★「縁」山崎厚太
2ページ	★2006年度総会議案報告
3ページ	★総会・懇親会レポート
4,5ページ	★会員からのエッセー「今までで『心に残った○○○○』」
6ページ	★友へのメッセージ「長男の結婚・足の捻挫から会得したこと」加納幹郎 ★事業部掲示板「新年会のお知らせ」「今後の行事予定」
7ページ	★「ホームカミングデーに参加して」石川晶雄★「業界こぼなし」山崎司平
8ページ	★「楽苦我喜」石川健次 ★事務局だより ★編集後記



(題字・葛西 聖司)

家には6匹の猫がいます。最初10年前に1匹、9年前に1匹、7年前に2匹、1年8ヶ月前に1匹、4ヶ月前に1匹、全て捨て猫です。生まれて1〜3ヶ月なのでほっておけば皆死んでしまったでしょう。なかなか見捨てるわけにはいきませんでした。動物というのは、こちらの気の向いたときだけ、餌をやっていたら良いというわけにはいきませんし、病気にもなります。家族で何日も家を空けて旅行というわけにもいきません。この10年間、猫の為に時間は随分制約されました。しかしながら、猫を飼っていたお陰で、家族が大変和みました。子供は幼稚園、小学校と成長するに従って親から自立していきます。猫がいなかったら、家族の会話は今ほど無かったと思います。飼いはじめた気がついたのですが、猫の性格はこれほど違ったのかという



ことです。気が強い猫から、おとなしい猫、気が合う猫と合わない猫、食べ物の好き嫌いもあります。私達家族へのなつき方もそれぞれの猫で違います。さて、先日テレビでやっていましたが、動物への接し方は日本人と欧米人では考え方が大分違うようです。日本人は家族の一員として、欧米人はペット(家畜)として扱います。どういふことかといいますと、動物が怪我や病気をしたとき、あるいは年取って動けなくなったとき、日本人は世話をして、最後まで面倒を見ます。これに反して欧米人は、面倒は見ず、かわいそうというところで殺してしまおうです。ただ、日本人は家族の一員として飼っている動物に接すると一括りもできないようです。

少し前に日経新聞に女性コラムニストが書いていましたが、彼女は仏領の東南アジアの島に住んでおり、猫を飼っています。その猫は毎年子猫を産むのですが、産まれると生きたまま谷底へ捨てて殺すそうです。彼女によれば猫が子を産むのは自然の摂理であり、避妊を行うことは残酷なことだ。だから子は産ませる。しかし、これ以上猫が増えるのは困るから谷底へ投げ捨てて殺すのだと。私は、動物が怪我や病気になったらすく殺すとか、避妊が残酷だから産ませた上で子猫を生きたまま谷底へ投げ落とすという考えには賛同できませんでした。この世にせつかく生を受けたものを、そしてたまたまではあるが自分がその「生あるもの」と縁を持ったことは簡単に断ち切るものではないと思います。せつかく出来た縁というのは相手が人間であれ、動物であれむやみに無くすものではないと思います(いやな相手との縁は別です)。

10年前に初めて子猫を飼い出してから現在の6匹まで猫との縁を通じて自分の知らなかったことがわかるようになりましたし、考え方も良い方に影響を受けたように思います。「縁」ということを深く考えたことはありませんでしたが、日々生じる「縁」というものは大事にするに越したことはないと思います。

私は「49会」の「縁」から色々良い影響を受けましたし、今後とも大事にしていきたいと思えます。皆さん今後とも良い「縁」をお互い続けましょう。

縁^{えん}
49年白門会 会報
山崎厚太

【49年白門会2006年度総会】

2006年7月8日（土）後楽園の中大理工学部校舎に於いて、2006年度の「49年白門会」の総会が開かれ、各議案が審議されました。

1号から6号議案まで、各役員の説明に対して異議を申し立てる会員もなく、全員の拍手で了承されました。今年が設立7年目です!!

第1号議案

2005年度活動報告について

1・2005年4月9日（土）

観覧会「校名所巡り」

（千鳥が淵・外濠公園：14名参加）

2・2005年7月23日（土）

中央大学49年白門会2005年総会・懇親パーティー

（中央大学理工学部校舎：23名参加）

3・2005年10月23日（日）

第15回中央大学ホームカミングデー参加

（中央大学多摩校舎：19名参加）

4・2005年11月12日（土）

秋の散策会「お寺巡りと著名人」

（都電「町屋駅前」～巣鴨：8名参加）

5・2006年1月28日（土）

中央大学49年白門会新年会

（銀座「Ginza高松」：30名参加）

6・中央大学49年白門会会報の発行

・第10号：2005年6月23日（木）

・第11号：2005年12月1日（木）

7・中央大学49年白門会幹事大会活動

・第22回：2005年4月7日（木）

・第23回：2005年6月23日（木）

・第24回：2005年9月8日（木）

・第25回：2005年10月6日（木）

・第26回：2005年12月1日（木）

・第27回：2006年2月2日（木）

第2号議案

2005年度収支決算書

（2005年4月1日～2006年3月31日）

〈収入の部〉（単位 円）

費目	決算額
会費収入	254,000
懇親会収入	331,000
雑収入	18,542
収入合計	603,542

〈支出の部〉

費目	決算額
通信費	151,174
事業費	297,150
事務費	0
懇親会費	387,440
交際接待費	110,000
雑費	5,885
支出合計	951,649
当期収支差額	△348,107
前年度繰越金	1,618,412
次年度繰越金	1,270,305

第3号議案

2006年度事業計画案について

1・「中央大学49年白門会」事業計画案について

画基本について

① 会員相互の親睦・交流、会の組織強化、中央大学および学員会他支部との交流を図るための活動を行う。

② 親睦会・懇親会等の開催と各種同好会活動の実施

③ 会員名簿の発行と会報の発行

④ 新規会員の勧誘

2・2006年度事業計画（案）について

① 「観覧会」・「散策の会」・「グルメの会」・「映画鑑賞会」等の各種会員親睦会の開催

② 「ホームカミングデー」・「中央大学留学生」への支援の参加等

③ 「新年会」・2007年1月27日（土）の実施

④ 関西支部結成に向けての事前活動等々

第5号議案

2006年度役員案

支部長（会長）

山崎厚太（経）再任

副支部長（副会長）

山崎司平（法）再任

葛西聖司（法）再任

宮川保（経）再任

山田正（理）再任

渡邊秀和（文）再任

幹事長（事務局次長）

中島章夫（経）再任

副幹事長

荒木康裕（法）再任

（事務局次長）

石川雄雄（経）新任

（会計部）

後藤徳彌（経）再任

（事業部）

増田勝美（法）再任

（広報部）

大竹力三（法）再任

木村真（法）再任

（会計監事）

中山和實（法）再任

小澤秀敏（経）再任

第6号議案

その他

次のページで説明しています。

第4号議案

2006年度予算案について

〈収入の部〉

費目	予算額	摘要
会費収入	370,000	（入会金@1,000×10、会費@3,000×120）
懇親会収入	300,000	（総会懇親パーティー@5,000×20、新年会@5,000×40）
雑収入	50,000	（総会懇親パーティー寄付金他）
前年度繰越金	1,270,305	
合計	1,990,305	

〈支出の部〉

費目	予算額	摘要
通信費	70,000	（郵送料、はがき代）
事業費	230,000	（会報制作費他）
事務費	30,000	（事務用品、幹事会賃借料、交通費他）
懇親会費	300,000	（総会懇親パーティー・新年会飲食費他）
交際接待費	130,000	（125周年寄付金・留学生の集い・他支部への包み金他）
雑費	50,000	（郵便振替手数料、学員時報広告料他）
次年度繰越金	1,180,305	
合計	1,990,305	

設立7年目「49年白門会」 総会も懇親会も熱気充満

2006年度の総会が28名の会員の出席の下に開かれた。今年は役員改選の年でありましたが、全員再任された。昨年好評だった講演を今年も実施した。懇親会は「ミン」と「ウチワ」で大いに盛り上がった。懇親会に続いての二次会も学生時代に戻った夜だった。

昨年に引続き 講演会を実施

台風3号が沖縄方面を進行中で、梅雨空のうえに蒸し暑い7月8日土曜日。後楽園にある中大理工学部5号館3階の教室で午後3時から28名の参加のもとで総会が始まった。会長の山崎さんは顕権権間板ヘルニアとかで首をカラーで固定した痛々しい姿で登場。「加齢によることもありですので、皆さんも気を付けて

ください」と、健康問題を取り上げでの挨拶がありました。

議長に大竹広報部長を選出し議案の審議を開始。2005年度の活動報告、決算報告は、中島幹事長、後藤会計部長から報告され拍手で承認され、2006年度の事業計画案、予算案は、増田事業部長、後藤会計部長より提案され、これも全員の拍手で承認されました。

今年度は役員改選期であり、6月に配布した会報に掲載したように立候補者を募集しました。その結果を選挙管理委員長の宮川さんから「立候補の届け出はありませんでした」という報告があり、今年度の役員は前期の方が全員再任され、新しく事務局次長に石川昂雄さんが加わるといふ体制になりました。

第6号議案で、その他として3点提案がありました。

- *「49年白門会」会則の改正案で、第15条(ウ)の但し書き規定の「30000円以上を前納した場合は終身会員とする」を廃止。ただし従前の規定の会員については平成22年7月1日までとする。
- *会則第6条(5)の会計監事は3名とするとの規約に関して、今期

は5名の会計監事を選任しており、次期より規約上の3名に止すこととする。

*「会報」の広告掲載料を1号あたり5000円と規定していたが第12号よりこれを1000円とする。以上の3点が提案されいづれも承認された。その結果、今期の会計監事は木村真、中山和實、小澤秀敏氏が再任された。



講演する日高さん

約30分での総会終了後、作新学院大学教授の日高昭さんの「フランスと日本 経済・経営のおよむ文化・社会的視点から」と題した講演会がありました。

自分の娘さんの意に反してのフランス留学の話から始まり、経営・経済に関してはカルロス・ゴーンからフランスの大学制度についてまで幅広く話されました。フランスには約80の大学がありすべて国立であるが、産業革命には関わらない分野で

の発声は名古屋から今回も駆け付けてくれた加納さん。実は翌日息子さんの結婚式があるので上京したとのこと。その息子さんの相手が相当年上だということもお話してくれました。いつの間にか我々同期も、子供の結婚とか孫とかの話題が出てくる歳になったんですね。日高さんを取り囲みフランス談義に花が咲いたり、健康や年金の話で談話の輪が広がりました。

日はまだ明るいつわ方の5時過ぎ、ビール、ワイン、日本酒、焼酎、ウイスキーと散々飲み食いした頃、先程の加納さんが、名古屋名物「八丁味噌」12個のプレゼントを申出てくれました。名古屋から6キロの味噌をこの懇親会のために持参していたことに感激しながら、じゃんけん大会が始まり12名に味噌がプレゼントされました。

残念がる負け組みに対して、さすが葛西さん、「味噌を付けない」演出。やにわに団扇を5本出し、「これは京都祇園の舞子さんの団扇で、表には置き屋の名前と舞子本人の名前、裏には置き屋の紋が描かれた、見る人が見れば凄く価値のある団扇」と「うちわ話し」を披露し、じゃんけんに負けた人が再度じゃんけん大会。勝った5名にプレゼントされました。

お開きは恒例の校歌と応援歌の斉唱。リードは小澤さんで、応援歌が終わると凄く声量でエールの交歓をしてくれました。6時過ぎ、十数名が二次会の会場に向かいました。(広報部)



懇親会は、限定 プレゼント付き

司会はお馴染みの葛西さん。乾杯

会員からの
エッセー

「心に残った」を語る

50も半ばに達してみると過去を振り返ることがあります。そのついでにはあの時、あんなことがあったな...こんな思い出があった...とこのことの一や二はあります。会員の皆様から、そんな心に残った思い出の数々が寄せられました。

映画

安藤 正幸(経) 東京都
杉並区

最近の映画でDVDを買っておいでもいいかなと思っている映画がある。「3丁目の夕日」という昭和33年を描いた映画だ。コミック誌で人気の漫画を映画化したもので、いわゆる名作感動ものではない。

昭和33年、われわれの小学校1年の頃がまさにそのまま再現されていて、一瞬にしてタイムスリップしてしまった。

その頃は母方の実家のある赤羽に住んでいた。戦後の匂いがまだ残っていて家の近くには土管の転がる原っぱがあり、いつもそこで遊んでいて紙芝居もやってきた。その頃の子供はみな悪がきであったが、素直でいつも目は輝いていたし、大人も近所づきあいがオープンでたくましかった。

テレビが初めてうちに来たときも映画「3丁目の夕日」の場面と同じように近所の人が集まり、部屋を暗くして映画館のようにして見たのを覚えている。

思えばテレビっ子第一号がわれわれ

れたったのだ。49会で盛り上がったときの歌もすべてあの頃のテレビ主題歌だ。50年近いのに皆ほんとに良く覚えている。

一緒に見に行ったかみさんは埼玉県川越の農家出身なので当然私とは違う記憶を持っているが、同世代しか共有できない話をするのはなかなか楽しいものだ。今度は両親や子供たちにも見せようと思っている。

パリにて姉妹二人

小泉 純子(文) 埼玉県
川越市

あの日姉と私は衝撃のあまり言葉もなく暫しその場に立ちすくんでいた。胃の摘出手術から6年、まさかの再発の宣告である。数年前母を亡くし、失意と悲しみからまだ抜け出せないでいる私たちの前に、またもや無慈悲で残酷な現実が立ちちはだかったのである。いつかはこんな日が訪れるのではないかと不安にかられながらも、父には病名を告知せず、真実を悟られまいと、私達なりに必死にたない演技を続けてきた6年間であった。

病室の窓から満開の桜をしっかりと



父が若かりし頃、画家を夢見て単身渡仏を望みつつ、親の反対でかなえられなかったあの憧れのパリの地に、やっと辿り着く事ができた私達であった。

父が若かりし頃、画家を夢見て単身渡仏を望みつつ、親の反対でかなえられなかったあの憧れのパリの地に、やっと辿り着く事ができた私達であった。

と脳裏に焼き付ける父は、4ヶ月後静かに旅立っていった。父との別れから13年の歳月が流れた4年前の秋、姉と私はモンマルトルの丘の上に佇んでいた。父のお気に入りの形見の古ぼけた腕時計をはめ、元気だった頃のとりわけ男前の写真を数枚、肌身離さずポケットに入れて...

仲間との出会い

佐藤 隆(経) 東京都
府中市

書物 映画 食べ物:「心に残ったものは数あれど、日常の過半を会社で過ごしている身なれば、ワーカーホリックではないが「心に残った仕事仲間との出会い」を記したい。激戦区である首都圏の支社長を任された時、数多の競争相手を尻目に転勤までの4年間、毎年ほぼ一等賞をとる事が出来た。朝礼で「このキヤンペーンは血のシヨンベンが出る程やって、全員9日間の夏休み(当時は3日間十土日が主であった)をゲットするぞ」と言うや、朝礼後にベテラン女子社員が「はい検床!検尿!」と茶化しながらも組織の一体化を図り一人一人が力を発揮、断突のトップ入賞を果たせた。

また締切りの残業で「手伝うよ」と新人女子社員に言えは「支社長がやると間違えるからアイスでも買って来てください」と言われ、残業おやつを買出しに。

あるいは、冬の2種目キャンペーン時、晦日の締切りも一週間に追った時、特別賞入賞の大半を託していた提携銀行の支店長が訪ねて来て「確約分が正月明けにずれた」と謝りにいらした。「サラリーマンは、除夜の鐘と共に小判が木の葉になるんですよね」と、恨みがましいことを言いつつ地の底に陥ちた顔でい

るや、「せめてもう片部門を敢闘賞でなく、銀賞迄やり抜きます」と2年目社員が奮起発言。全員が燃えに燃え、結局銀をやり遂げ一日諦めた部門も銅賞に入賞できた。

嬉しい戦いの連続でした。毎年、女子や若手男子の企画で温泉や、尾瀬やスキーに行き、とにかく毎週のように全員でよく飲みに行き、皆が「会社に行くのが楽しかった」と言ってくれる。「心に残る」充実感。

何故そうなったのか? みんなで目標を共有し力一杯戦いカバールし合、それを称え合い、とりわけ全てにおいて全員が己への謙虚さや節度で譲り合い、仲間をおもいやる気遣いが醸成されていたが、これら先輩が示しそれを学び受け入れることの出来る素直な後輩との出会い。これこそが15年後の今、みんなが誇り慈しめる組織となった全てです。

帰省

背戸柳良辰(商) 千葉県
八千代市

先日久しぶりに郷里の高岡に帰省した。高岡は北陸の地方都市で人口は17万人程度である。最近ではドラえもんの作者である藤子・F・不二雄の出身地として有名で、ちよつと前になるがNHKの連続テレビドラマ「まんが道」の舞台にもなった。

JR高岡駅につくと約束の時間まで少しあったので久しぶりに町を歩いてみることにした。私が小さい頃

はその町で一番の高いビルというのは大和という百貨店で、たしか建物の中央に大理石の階段があつてどっしりとした風格のある建物だつた。当時は観覧車が屋上にあつて、それに乗ると高岡の町を一望のもとに見渡すことができた。

その頃はこの町にはビルは数えるほどしかなかったのである。子供心にもここが世界の中心のように思つてた。そしてその食堂でウエハースのついたアイスクリームを食べるのが子供にとって一番の楽しみであつた。

なんとなく明るいという時代だつた。懐かしく思いふらりと大和のあつた所に行つたら、建物は新しく建てかえられ観覧車もなくなり、周りにはビルがいくつも建つていた。とたんに昔の記憶は急にセピア色になつてしまつた。

山小屋

高木 潔(法)

神奈川県
横浜市

近頃の山小屋は「極化している。繁盛しているのは百名山の主要なルート上にあるところで、こういう小屋は設備が良く水洗トイレに冬は電気炬燵。あと一步でペンション並み。それ以外の小屋はほとんど山奥まで通じてしまふ舗装道路のおかげで昔は一泊のルートが今は案々日帰りになり宿泊客が減少。それ故小屋は昔のまま。亡くなった友人は後者のよ

うな小屋が好きだつた。

そのひとつが丸川荘たというので日帰り登山の帰路に立ち寄つてみた。ここは百名山の大神楽にありながら主要ルートからはちよつと外れているせい、まさに昔ながら。設備といへば新ストーブと古いテーブルに長椅子、あとは薄べりを敷いただけの板の間。ちよつと薄暗い小屋の中を覗くと小屋番が話しかけてきた。どこかで会つたことがあるような、なつかしさを感ずる人物。

一度でこの小屋と小屋番が気に入つてしまつた。それからこの日帰り可能な山に時折泊まりがけで出かける。誠実な小屋番がストーブの上で作ってくれる暖かい料理、日々の山の話などをやわらかいランプの明かりの下で聞く。寒くなつたらまた泊まりに行こう。



最近の本

高柴富士男(経)

東京都
新宿区

「国家の品格」という本が今話題のベストセラーになつてゐる。私も読んでみた。要約すると、西欧に生まれた「自由」、「平等」、「国民主権

を中心概念とする近代合理主義は、急速に世界に広まり、二十世紀の世界をリードして来た。それと同時に多くの弊害も生じ、西欧合理主義は行きつづまりをみせている。このような状況にあつて、日本文化にある「も

のあはれ」を中心とする自然に対する繊細な感受性は、ともすると自然に敵対し征服しようとする西欧合理主義に対し、自然と共に生きることを教え、日本の武士道にある「慈愛」、「誠実」、「忍耐」、「正義」、「勇氣」等の精神は、グローバリズムの進行によつて少数の勝者と多数の敗者を生み出している世界的状況に対し、「敗者への共感」、「劣者への同情」、「弱者への愛情」を教える。

戦後の急速な経済成長によつて影の薄くなったこれらの日本の精神を復活させることは、世界への大きな貢献にもなるというのである。

「国家の品格」を取り戻せという「憂国」の本なので、会員の皆様も読んでみてはいかがでしょう。

いくつかの風景

原 伸正(経)

千葉県
浦安市

12月に知人の結婚式に招かれ、挨拶を頼まれてゐる。さて何を喋ればいいのかやらと、今まで心に残つたことを思い出して見た。

中学の修学旅行。「日の出号」で京都へ。京都の町はよく覚えていないが、夜行列車の中で、憧れの「み

どりちゃん」と向いの席になり、夜通しランプゲームをしたこと、そして、さりげなく写真を撮れたときの嬉しかったこと。外は山間に真っ赤な朝日が昇る頃、若い心に残つた一シーン。

次は高校受験の合格発表の日、受かつたことを電話で伝えて家に帰ると、母が風呂を沸かして待つており、「おめでとう。早く風呂に入つてゆつくりしなさい。」と一言。自分より嬉しそうなお母の顔が心に残つた。

高校の体育祭の練習をサボつて何人かの仲間と吉祥寺「春木屋」で食べたラーメン。そのうまさ最高、心に残つた味。

学生運動が盛んな頃、駿河台の薄暗い校舎で、白いヘルメットの数人を別のグループが木刀で殴つていた場面に遭遇した。本当に死んでしまふと思つて、凄く殴り方だつた。あの人は今頃どうしているのだろう。心に残つたセピア色の校舎の風景。

そして自分の結婚式。駿河台、山の上ホテルでの披露宴も終わり、その夜泊まる部屋に妻を残して友達と神田へ出かけた。その夜は友達と泊まるためにもう一部屋予約しておいたが、戻つてからその部屋で呑み直し、妻の待つ部屋には戻らず朝を迎えた。心に残る大失敗。妻には今でも時々叱られる。

いろいろ思い出したが、結婚式の挨拶には相応しくないようだ。別の話題を考えよう。

一人旅

益田 耕二(法)

東京都
港区

私は旅日記と題する手帳をう冊大切に持つてゐる。時期は高校を卒業する前後から始まつて、就職して名古屋に転勤する直前までの東京で過ごした独身時代で終わつてゐる。

私は大学一年の夏休みに北海道よりも岬の近くで昆布漁を営む池田さんという方の家で45日間アルバイトをしたが、大学4年の春休みに再び北海道を一人で訪れた。

このときは道北を中心に廻る予定だつたので、えりもに行くつもりはなかつたが、道北から道東を廻つてゐるうちに気が変わるのである。そのときのことが旅日記にはこう記されている。

「きのう標準に来る途中考えた。今回の旅行はどれも目標が定まらなくて、中途半端な感じである。YHにいてもなんとなく物足りない。原因はいつも同質の連中とばかりつきあふことになるからだろう。中略もつと土に接した人と話したいと思つ。そんなことを考えているうち急に池田さんたちに会いたくなつた。」

旅日記には、その後池田さんと再会したときが感動的に綴られてゐる。

そして、一昨年夏に一度目の再会を果たすことができたのである。

友へのメッセージ

長男の結婚・足の捻挫から 会得したごと 加納 幹郎(経)

49年白門会の皆さんに、綾会後の懇親会で祝福を受け、無事に長男の結婚式を終えることができました。皆さんからの祝福が、私としては想定外のことでしたので大変うれしく、また翌日の結婚式を、現実のものとして認識した次第です。

半年ほど前に息子から結婚の予定を告げられ、父親として嬉しくもあり、また、愛知県に住まない現実を寂しく感じておりました。結婚後に愛知県の親戚に挨拶に来ることになりましたが、挨拶後には新婚夫婦はさつさと別行動をし、東京に戻りました。実家によらず……。

息子夫婦が帰京した夜、妻としまじみと話し合いをし、「これからは夫婦二人の生活をベースに考えていくことにしよう!」と心に決めた次第です。しかし、妻は愛知県の安城市に住む次男を、何とか手元に引き付けるべく、何かと策を弄しているようです。

そんな生活をしておりましたら、10月15日晴天の日、客先のゴルフコンペに参加しゴルフを楽しんでいるおり、道路からグリーンに向かうと

きに、ラフに隠れていたマンホールで「バキッ」という大きな音とともに右足首を捻挫。足の骨が折れたかと思いましたが、足首が動き少々捻挫したかと判断し、無理をしてゴルフを続行したところ、だんだんと痛みが激しくなりプレーを中断しました。

翌日整形外科に飛び込み診断を受ける。「2週間は安静にしてください。骨折はしていませんが、本当は3週間静かにしていただく」とのこと。それからは自宅で療養し妻の介護を受ける身となりました。

25年ぶりに1週間会社を休み、静かにしておりました。妻は、自動車免許は30年前に取得しておりましたが、全くのペーパードライバーで、運転は無理な状況です。旦那の無様な姿をみてか、老後の介護を考えてか、初めて自分から「車の運転を始めようかしら」といい始める次第です。私から「そんな恐ろしいことはやめろ!」と言っても妻からは「あなたに何かあったときは、息子がいないから私が運ばないといけないでしょ」とい

われる始末です。

私も心の中で「女房がいつの間にかえらく逞しくなったな」と感じつつも自分が弱くなったことも感じております。以前白門会でどなたかが老後は女房を大事にしないと不味いよ、と仰っていたことを思い出しております。

長男の結婚そして足首の捻挫で、私は大変大きなことを会得しました。白門会の皆さん、今からでも遅くありません、女房を大事にしましょう。そうすればリタイア後も心静かな生活を確保できる可能性(?)が増えると思います。



左側が加納ご夫妻

事業部掲示板

新年会

今回も前回と同じ銀座の「Sunmi高松」で行います。土曜日の午後5時、美味しい料理とお酒で友好を深めましょう。

今回は「オークション」を行います。詳細は同封の案内を見て下さい。もちろん、二次会の用意もしております。

多数の会員の皆様のお参加をお待ちしております。

日時 平成19年1月27日(土)
午後3時~5時

場所 Sunmi高松

東京都中央区銀座6-3-9

TEL 03-5568-3300

会費 5千円

今後の予定

3月頃、江戸東京博物館見学(西国でチャノ鍋の会を企画)

実施決定後、ホームページ「掲示板」に実施方法を掲出します。

※事業部の活動とは別に、皆さんの計画がありましたら、ホームページ「掲示板」を使って仲間集めをしてみませんか。

永六輔さんも「待ってましたア」とご推薦

名セリフの力

—日本語をきたえる76のことば—

NHKエグゼクティブ・アナウンサー 葛西聖司 著

「知らざア言って聞かせやしょう」「お若えの、お待ちなせえ」……誰でも知っている名セリフから、日本語の豊かな表現力を学び、会話力を強くする。

四六判上製 278頁 定価1780円(税込)

展望社 東京都文京区小石川3-1-7 ☎03-3814-1997 FAX 03-3814-3063

主要取扱申請書類等

- ◇ 建設業・工事入札・産廃業・宅建業
- ◇ 風俗営業・会社設立・会計帳簿作成
- ◇ 外国人在留手続・帰化・国際結婚
- ◇ 遺言書作成・遺産分割協議書作成

法律相談 申請書類作成 提出手続代行

行政書士 増田勝美 電話 03-3713-2299

ホームカミングデーに参加して

10月22日(日)、天気はうす曇りながらも時々日が射す行楽日和に恵まれました。昨年のホームカミングデーでの反省から、今年はメイン会場の入り口近くのテールを確保して49会の旗を立てて同期生の来訪を待ち受ける案を実行しました。

同じ事を考える人は多いもので、朝一に場所取りのため先遣隊が訪れた時はすでにかなりの各白岡支部が陣地を確保していました。我々49会もなんと45年白岡会と41年白岡会の間で入り口近くの好位置を確保できました。入り口の好位置が幸して向かい側は出店売店が並び、飲み物つまみに不自由はなく、先遣隊は皆が来るまで楽しく歓談に興じる事ができました。

そうこうしているうちに徐々に仲間が集まり、そのたびにビールやつまみを買いに走りますが、向かい側の売店には我々が新年会で例年使う

石川晶雄 (経済)

Sumi-高松が出店！ 小澤さんが交渉をし携帯で注文してつまみの出前をもらうことができました。また別のところでは南極の水を無料配って渡邊さんが何回も並びかなりの南極水を確保しておいしいチュウハイを飲む事もできました。

両隣の年次支部からも49会はずいぶん盛り上がりつつあるねとやらやましがられもしました。メインステージのトークショーが終わると葛西聖司アナウンサーもわれらの席につき抽選会の間まで盛り上がりました。抽選会は今年も残念ながら我々の中からは当選者は出ませんでした。

最後は恒例の応援団による応援歌・校歌でしたが、我々が現役のところは応援団は男ばかりの3〜40名の集団だった記憶がありますが、今年の応援団は旗手と太鼓の各1名を含め男性4名であとは女性のチアリーダー6名と男女混合の吹奏楽隊という構成です。状況により応援団長が太鼓をたたいたり一人二役で大変そうでした。

本日の49会の参加者は山根さんの紹介で本日新入会された菱倉義成さんや、宮崎県から来られた田村さん、新潟県長岡市から来られた松平さんなど合計21名になり、周りの各年次支部や地域支部にもおおいに49会の存在を示せたと思います。



一. 法料の中央

裁判官・検察官または弁護士になるという者を選抜する司法試験が平成18年から変わりました。法曹養成制度として法科大学院の制度が発足し、平成18年に法科大学院卒業生を対象とする初めての「新司法試験」が実施されたのです。今年の合格者は、中央大学法科大学院卒業生が、「数のうえでは」一番になりました。一部では「法料の中央」の復活という声も出ました。しかし、受験資格のある法科大学院卒業生の数が最も多かつたことと連動しており、発表前から予測されていた結果でした。

二. 法科大学院制度の導入

法科大学院は、平成13年6月12日付の「司法制度改革審議会」の意見

同期の中には、いろんな職業の方がいらっしゃいます。自分とは全く関係のない職業の方でも、いつか関わってくることもあるかもしれません。また、仕事の内容がどのようなものなのかも興味がわいてきます。今回から、いろんな業界のお話しを掲載します。1回目は、49会の副会長である「弁護士」の山崎司平さんです。

弁護士 山崎司平(法)

書が提言した制度です。これは、司法試験の合格者を従前より増やそうという意見を採用した結果です。法曹人口増員論は、平成12年の弁護士・弁護士会の最大テーマの一つでした。私は、当時、日弁連常務理事として議論に参加していました

が、九州選出の理事の発言が印象に残っています。「受験する時は合格者の数が多い方がよいが、弁護士になったら、弁護士の数が少ない方がよい」という彼の発言は、会議に参加していた弁護士全員の本音といえるものであったと思います。

三. いれからの弁護士は

商売敵が増えるにもかかわらず、私が弁護士増員論に与した理由は、アメリカのような訴訟社会を良しとしたからではありません。「弁護士は、敷居を低くするとともに色んな分野に出てこい」という声に心えるべきだと思っただけです。

社会は「行政による事前規制」の体制から「司法による事後制裁」に変わりつつあります。21世紀は「自

己責任」による「法化社会」ともいわれます。みなさんも、トラぶつてから相談するのではなく、「社会生活上の医師」であるべき弁護士に、各種の行動を起こす前に気軽に相談するライフスタイルを考えては如何でしょうか。勉強しますので……。

山崎司平法律事務所
 第二東京弁護士会所属
 野方警察・被害者支援ネットワーク会長
 中大法学部非常勤講師(憲法)

辯護士 山崎 司平
 東京都中央区銀座3丁目10番9号 共同ビル6階
 電話 03-3546-0281 FAX 03-3546-0280

楽苦我喜石川 健次 (通教)

身体に残った100キロ行軍

沖縄本島の北部に在る奥間ビーチを、12時に出発する。国道58号線を南へ100キロ離れた、那覇軍港へ翌日の12時までには到着しなければならぬ。途中で水は飲んで良いが、物を食べてはいけぬ。

早足で歩き始める。17時頃に名護市(30キロ)を通過した。ここまでは順調で休むこともなかった。途中で足首やふくらはぎが次々と痛くなつた。不思議なのは、腰から背中、やがて肩まで痛んだことだった。腰を下ろして一休みする。靴を脱ぐとマメが幾つかできていた。

気合いを入れて再び歩き始める。許田(37キロ)の辺りで日が暮れかかる。ここから恩納村を過ぎる(60キロ)までが大変だった。1時間くらい歩いては倒れ込む。そのまま歩道にうつぶせで寝てしまう。15分くらい転がったままで、のそりと起き上がりふらふら歩き始める。こんなことを6、7回も繰り返したろうか。なんとか仲泊までたどり着いた。

これから先、山田と読谷村は上り坂になる。思っただけで気が遠くなるそうだった。でも歩き始めなければ進まない。立つのがやっとで、25センチの靴がその半分くらいしか進まないような時もある。倒れては起き上がり、なんとか下り坂が見えた時はそのまま座り込んでしまった。比謝の辺りで陽が昇り始めた。

嘉手納ロータリー(75キロ)に着いたのは9時を過ぎていただろう。一休みして立ち上がる。夜が明けて人目もあるので、倒れるわけにはいかない。とぼとぼと歩く。身体を前に傾けて、足を引きずるように。水釜まで来ると進まなくなった。とうとう終わりである。10時頃だったろう。結局22時間かかって、80キロ足らずの行程だった。脚が痛いのは仕方ないとして、身体(内臓)はとてども心地よかった。心が自然でない時は、歩けば自然になれそうだった。

事務局だより

「49年白門会」も設立して7年目に入りました。会員も少しずつですが増えてきています。定年後をより楽しくするには、この会を活用されるのがよろしいかと思えます。

さて、この「49年白門会」は皆様の会費によって運営されており、今回、会費納入のご案内を同封いたしましたので、宜しくお願いいたします。

この会の連絡先・事務局が毎回変わってご迷惑をおかけしましたが、今回からは、中大学員会事務局になりましたので、宜しくお願いたします。

来年1月末の新年会には「オーケション」を行います。今から楽しい演出を考えておりますので、是非参加して下さい。

ホームページの活用や、この会報に対するご意見・ご希望など、どんなお寄せください。

※「49年白門会」の連絡先・事務局が変わりました。

会費の納入についてのお願い

49年白門会は会費によって運営されています。未納入の方は、是非、会費を納めてくださるようお願いいたします。

年会費3,000円、入会金1,000円です。

なお納入方法は、下のいずれかをお選びください。

- ①郵便振替 (手数料は不要です)
 - 振替口座番号 「00180-3-196081」
 - 口座名称 「49年白門会」
- ②銀行振込 (振込手数料が必要です)
 - 銀行名 三菱東京UFJ銀行日野市役所支店 普通預金 「0569115」
 - 口座名 49年白門会 代表 山崎厚太

49年白門会連絡先・事務局

※住所・勤務先変更、新規会員紹介、お問い合わせ等、何でもご連絡ください。
 ※年2回発行するこの会報へ、広告の出稿、詩、俳句、エッセー等の原稿、企画案、ご意見をお寄せください。

49年白門会幹事長 中 島 章 夫
 東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学学員会事務局
 電話 03-3219-6175 FAX 03-3219-6177

※メールアドレスの登録・変更は
hakumon@gray.plala.or.jp にご連絡ください。

編集 後記

解放された貴重な時間

10月初め、国経25組の級友5名で、7年前にガンで逝去した神野孝史君の墓参りをした。JR千葉駅で待ち合わせ、彼の眠るメモリアルパークに向かった。夫人と長女の方も同行された。小雨の降る肌寒い天気であったが、我々7人は墓前で焼香すると共に、彼が安らかに眠っているのを感じ取った。

生前彼は多忙の中、我々級友達と

10月初め、国経25組の級友5名で、7年前にガンで逝去した神野孝史君の墓参りをした。JR千葉駅で待ち合わせ、彼の眠るメモリアルパークに向かった。夫人と長女の方も同行された。小雨の降る肌寒い天気であったが、我々7人は墓前で焼香すると共に、彼が安らかに眠っているのを感じ取った。

彼が永眠した翌年49年白門会が発

足し、新しい仲間と巡り合えることができた。会えばワイワイとやっている。先のホームカミングデーは、20名を超える会員が集まり、盛り上がりぶりは、他の白門会に比べ、一際目立った。新しい会員が増え、顔を出す人が多くなれば、もっと楽しい会になると思う。利害関係のない人達で、安価でこんなに楽しく騒げるのは貴重なことですよ。(村岡 潤)

広告募集

この会報を作る費用を広告収入で賄う程度を予定しています。広告スペースを千円で提供しますので、ご協力お願い致します。原稿の版下があればそのまま使いますが、無ければ広原原稿を広報部で作成します。お申し込み、ご相談は事務局までご連絡ください。